

**公立大学法人首都大学東京 第二期中期目標期間
業務実績評価 項目別評価(素案)
【各委員評価コメント付き】**

第二期中期目標期間の項目別評価(コメント一覧)

< 首都大学東京に関する目標 >

1 教育に関する達成状況への評価コメント

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
評価コメント (案)	<p>・法人が掲げた中期計画の達成に向けて、<u>学士課程教育・大学院教育の改革に積極的に取り組んできた。特に教育改善への取組やその過程が顕著であり、新たな教育研究組織の体制へと進展したと理解でき、高く評価する。</u></p> <p>・第二期中期計画期間において国際化への取組は強化されており、学生交換協定校を拡充し、留学生確保のための日本留学フェア等の実施により、留学生の派遣数・受入数ともに着実に増加している。また、学長裁量枠若手研究者海外派遣支援制度など教員の国際交流推進に係る制度の構築も進んだ。</p> <p>・新たに保護者向け説明会を行うなど、大学説明会等を充実させ、志願者・保護者・高校教員に広く発信している。また、大学院博士前期・後期課程において10月入学を複数の研究科で導入するなど、より柔軟な進路選択が可能な環境を整えた。</p> <p>・授業改善のためにFD活動とともに、授業改善アンケートを活用し、シラバス改善に努めている。</p> <p>・ダイバーシティ推進室とダイバーシティ推進委員会が中心となって、組織的に障害のある学生への支援が行われている。障がいのある学生も支援スタッフとなって企画や情報提供を行っている点を評価する。更なる全学での支援・活動充実や参加者増加に期待する。</p> <p>・ボランティアセンターを開設し、学生への情報提供・相談支援・マッチングを行うなど、<u>ボランティア活動に関する充実した支援が行われている点を高く評価する。</u>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を見据えた、学生、大学のボランティアとしての関わりの充実にも期待する。</p>	<p>・「研究者交流サロン」や「サイエンスカフェ」は成果をあげていると評価する。学際的な議論が新しい研究へと発展することを期待する。</p> <p>・TA制度にSTA、SAを新設したり、TAの従事対象時間を拡大するなど、制度の充実が図られている点が評価できる。TA制度は授業補助を行いながら学生が能動的に学ぶ機会ともなることから、効果的な取組となるように教員への意識啓発など、更なる充実が期待される。</p> <p>・メンタルヘルス対策として研修会を実施しているが、回数を増やす、参加しやすい時間帯を工夫するなど、参加者数を増加させるための工夫が必要である。</p>	<p>・大学院博士後期課程の一部の専攻で定員を充足していない。第一期中期目標期間の業務実績評価においても、改善を要する点として、一部の研究科における定員充足率の低迷を指摘されている。十分に検討し、改善に取り組んでいただきたい。</p>
参考意見		<p>・ボランティアセンターの設置と経過(今後の展開)について注視していきたい。</p> <p>・昨年度東京都と連携して実施した「子供の貧困実態調査」はすぐれた成果を挙げたが、同時に都下で経済的理由で大学進学を断念するような「優秀な」「学ぼうとする意欲のある」学生を発掘し、首都大に引付ける仕組みづくりも検討していただきたい。</p>	

<首都大学東京に関する目標>

1 教育に関する達成状況への評価コメント

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
松山	<ul style="list-style-type: none"> 掲げた中期目標・計画に向けて、学士教育・大学院教育において積極的に取り組んできた。特に教育改善への取り組みやその過程が顕著であり、新たな教育研究組織の体制へと進展したと理解できる。高く評価する。 国際化への取り組みは顕著で、留学生の受け入れと留学派遣は着実に増加している。留学生確保のための日本留学フェア等が成果をあげていると思われる。 学生に幅広く学べる環境を提供しており、特に学生の自主性が活かされる教育システムを高く評価する。 授業改善のためにFD活動と共に、授業改善アンケートを活用し、シラバス改善に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「研究者交流サロン」や「サイエンスカフェ」は成果をあげていると評価する。学際的な議論が新しい研究へと発展することを期待する。参加者がより多くなることを願っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学院博士後期課程の一部の専攻で定員を充足していない。改善を必要とするが、十分に検討した上で、慎重に取り組んでいただきたい。
島田	<ul style="list-style-type: none"> 東京都の大学として、ボランティアでの都立中高との連携や地域ボランティアなどの地域との連携と同時に国際交流や留学生支援など国際的な役割も大いに果たしている。 ダイバーシティ推進室の活動は多岐にわたり、活動も活発で、特筆すべきである。 		
鈴木	<ul style="list-style-type: none"> 都立高校や有力校と連携して、出張講義や研究協議会を行うなど、意欲のある学生の受入促進のために工夫した取組が行われている点が評価できる。 図書館について、開館時間の延長、Webによるサービス利用促進などの利便性の向上、SA活用、電子コンテンツの環境整備等、学術情報を有効に活用できるような取組も推進されている。 低学年からのキャリア形成支援が行われている。就職活動支援に留まらず、働くことやライフ・キャリアについて、長期的に考えたうえでの職業選択ができるような支援の充実が期待される。 学生相談室の取組の充実により、相談件数が増加している。相談ニーズを抱えながら相談に繋がっていない学生に対する支援などについても、取組の充実が期待される。 国際交流科目の拡充により、外国人留学生に対する教育面での環境整備が進んでいる。 充実した「授業改善ハンドブック」を作成し、全教員に対して配布している点が高く評価できる。「手法編」「事例編」で構成され、具体的方法の解説だけでなく、事例も紹介されていることから、授業検討に大いに役立つことができる。 ダイバーシティ推進室とダイバーシティ推進委員会が中心となって、組織的に障がいのある学生への支援が行われている点が評価できる。障がいのある学生も支援スタッフとなって企画や情報提供を行っている点も高く評価できる。 ボランティアセンターを開設し、学生への情報提供・相談支援・マッチングを行うなど、ボランティア活動に関する充実した支援が行われている点が高く評価される。オリンピック開催に向けて、学生、大学のボランティアとしての関わりの充実も期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> TA制度にSTA、SAを新設したり、TAの従事対象時間を拡大するなど、制度の充実が図られている点が評価できる。TA制度は授業補助を行いながら学生が能動的に学ぶ機会ともなることから、効果的な取組となるように教員への意識啓発など、更なる充実が期待される。 障がいに加え、他に取組を推進していく必要のあるテーマがないか、ニーズや課題の収集・分析を行い、ダイバーシティに関する取組が進んでいくことが期待される。 低学年からのキャリア形成支援が行われている。就職活動支援に留まらず、働くことやライフ・キャリアについて、長期的に考えたうえでの職業選択ができるような支援の充実が期待される。【再掲】 ボランティアセンターを開設し、学生への情報提供・相談支援・マッチングを行うなど、ボランティア活動に関する充実した支援が行われている点が高く評価される。オリンピック開催に向けて、学生、大学のボランティアとしての関わりの充実も期待される。【再掲】 	

各委員 コメント	鷹野	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに保護者向け説明会を行うなど、大学説明会等を充実させ、志願者・保護者・高校教員に広く発信している。 ・大学院の10月入学を導入するなど、より柔軟な進路選択が可能な進路選択ができる環境を整えた。 ・工学分野の再編・統合、都市政策科学分野の再構築、都市教養学部の4学部への再編、これに対応させた大学院の再編等、首都大学東京の再編を行うこととした。 ・教職員間の連携を密にして、きめ細やかな進路相談支援を行ってきた。学部生について、第二期中期計画期間に置いて、全国平均に比べて高い就職率を維持している。 ・第二期中期計画期間の健康診断受診率は、増加傾向にあり、努力の成果が認められる。 ・第二期中期計画期間において学生交換協定校を拡充し、留学生の派遣数・受入数ともに増加傾向を維持している。教員の国際交流推進に係る制度の構築も進んだ。 ・障害のある学生自身が支援スタッフとなって活動し、勉強会の講師を務めるなどの様々な役割を担っている。共に活動することが、意識啓発の一助となっている。 ・学生の能動的な学習を促す授業実践例を紹介する冊子「授業改善ハンドブック」を教員向けに発行している。学内だけでなく、学外にも発信したらどうか。 ・障害のある学生のニーズに合わせた支援体制を構築している。 ・平成28年1月にボランティアセンターを開設し、来室した410名の学生への情報提供・相談支援・マッチングを行うことをはじめとして、ボランティア経験者・未経験者いずれに対しても適切な支援を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認証評価機関から、成績評価の問合せ制度について、「履修の手引等の記載は学生にはわかりづらい等不十分な部分がある、との指摘がある。その検討状況はどうか。 ・学生の能動的な学習を促す授業実践例を紹介する冊子「授業改善ハンドブック」を教員向けに発行している。学内だけでなく、学外にも発信したらどうか。【再掲】 ・メンタルヘルス対策として研修会を実施しているが、参加者数を増加させるための工夫が必要である。(回数を増やす、参加しやすい時間帯を工夫するなど。) 	
	高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・TA制度の充実、留学生(受入れ及び送出し)増加への施策などにより、グローバル教育、高度専門職業人育成が進化している。 ・図書館入館者数の大幅な増加は、各種取組みの成果と言える。 ・授業改善サイクル、FD活動は、尽きることのない課題であり、努力の継続を期待する。 ・就業化活動アドバイザー、キャリアカウンセラーの働きは重要である。 ・学生に対する、心身の健康増進への取組みは、重要である。 ・派遣留学生、受入留学生が共に増加していることを評価する。 ・障がいのある学生支援の取組みは、学生本人にはもちろん、一般の学生・教職員にとっても、とても意義深い施策であり、更なる全学での支援・活動充実や参加者増加に期待する。 ・「多様な経験を通じて健全な人格形成に資する」諸処の施策は、今の学生にはとても意義があると考え、ボランティアセンターの充実は効果が高いのではないかと推測する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜については、様々な取組みを行って、幅広く質の高い学生確保に努めていることは理解できるが、志願者数が横這いであることはやや残念である。 ・大学院研究支援奨学金制度の設置を評価するが、一方で、学部の授業料減免学生数は一貫して減少してきている。景気回復の効果など外部要因であれば望ましいが、審査基準の見直し等の理由であるとしたら、それが妥当であったかどうかの検証を十分行って頂きたい。 ・障がいのある学生支援の取組みは、学生本人にはもちろん、一般の学生・教職員にとっても、とても意義深い施策であり、更なる全学での支援・活動充実や参加者増加に期待する。【再掲】 	
	村瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・卒後3年目の追跡調査(回収率はまだ30%だが)を実施していることを高く評価したい。 ・昨年度東京都と連携して実施した「子どもの貧困実態調査」はすぐれた成果を挙げたが、同時に都下で経済的理由で大学進学を断念するような「優秀な」「学ぼうとする意欲のある」学生を発掘し、首都大学に引付ける仕組みづくりも検討すべきではないか(中長期的取組みとして学生・大学、社会にとってメリットあり)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターの設置と経過(今後の展開)について注視していきたい。 ・昨年度東京都と連携して実施した「子どもの貧困実態調査」はすぐれた成果を挙げたが、同時に都下で経済的理由で大学進学を断念するような「優秀な」「学ぼうとする意欲のある」学生を発掘し、首都大学に引付ける仕組みづくりも検討すべきではないか(中長期的取組みとして学生・大学、社会にとってメリットあり)。【再掲】 	
	吉田	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化を視野に入れて体系的な教育課程編成を行っている。 		

<首都大学東京に関する目標>

2 研究に関する達成状況への評価コメント

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
<p>評価コメント (案)</p>	<p>・先駆的な研究グループに対して、積極的な研究支援と戦略的な研究資源の配分を行った。</p> <p>・傾斜的研究費(全学分)学長裁量枠による選択と集中で先駆的研究を支援することだけでなく、成果報告会を通じて情報発信していることは「透明性」と「客観性」を高めるために非常に重要である。</p> <p>・科研費作成支援を実施し、科研費新規採択率30%を維持した。</p> <p>・リーディングプロジェクトや傾斜的研究費(全学分)学長裁量枠によるプロジェクトの支援、URA室の設置などの施策で、世界トップレベルの研究を推進・支援する体制は素晴らしい。また、やがて世界的研究につながるかもしれない、若手研究グループへの支援も好ましい。</p> <p>・出産・育児・介護と教育研究の両立を支援するために、研究支援員制度を創設したり、一時保育施設を新設するなど、ワーク・ライフ・バランス支援の充実が図られている点が評価できる。女性の活躍面でも、女性研究者雇用促進計画及び改善計画に基づき、ポジティブ・アクションが推進され、女性教員割合が高まるなどの成果が表れている。</p> <p>・平成23年度から平成28年度までにおいて女性研究者比率が増加しており、理学・工学系の女性教員の採用を着実に進めた。</p>	<p>・科研費の申請件数が増加している点を評価するが、平成26年度以降、新規採択率が5%程度低下している点は検討を要する。</p>	
<p>参考意見</p>			

< 首都大学東京に関する目標 >

2 研究に関する達成状況への評価コメント

		優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
各委員 コメント	松山	<ul style="list-style-type: none"> ・先駆的な研究グループに対して、積極的な研究支援と戦略的な研究資源の配分を行った。また、学長裁量枠等を活用して「選択と集中」による支援を行った。 ・既存の組織の枠を超えて卓越した研究資源を有機的に結び付け、国際的な研究拠点を目指す部局附属研究センターを設置に取り組んだ。 ・先駆的な研究グループに対して、積極的な研究支援、戦略的な研究支援の配分により、世界の頂点となり得る研究分野の育成が図られている点が評価できる。既存の組織を越えて研究資源を有機的に結び付けて国際的な研究拠点を目指す部局附属研究センターが設定されている。 ・科研費および外部資金は多少のバラつきはあるが第二期中期目標・計画期間を通して増加している。 ・広く都民に還元する講座を継続して開設して研究成果を報告している。 ・多様な研究者に開かれた大学として教育研究環境の整備に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費の申請件数が増加している点を評価するが、平成26年度以降、新規採択率が5%程度低下している点は検討を要する。 	
	島田	<ul style="list-style-type: none"> ・首都の大学として、大都市課題への研究が精力的に推進されていることは、大学の使命として重要な役割を果たしている。 		
	鈴木	<ul style="list-style-type: none"> ・先駆的な研究グループに対して、積極的な研究支援、戦略的な研究支援の配分により、世界の頂点となり得る研究分野の育成が図られている点が評価できる。既存の組織を越えて研究資源を有機的に結び付けて国際的な研究拠点を目指す部局附属研究センターが設定されている。 ・出産・育児・介護と教育研究の両立を支援するために、研究支援員制度を創設したり、一時保育施設を新設するなど、ワーク・ライフ・バランス支援の充実が図られている点が評価できる。女性の活躍面でも、女性研究者雇用促進計画及び改善計画に基づき、ポジティブ・アクションが推進され、女性教員割合が高まるなどの成果が表れている。 		
	鷹野	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費作成支援を実施し、科研費新規採択率30%を維持した。 ・理学・工学系の女性教員の採用を着実に進めた。平成23 - 28年度において女性研究者比率増加(15.0% ->19.8%)。 		
	高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディングプロジェクト、学長裁量枠プロジェクト、URA室の新設などの施策で、世界トップレベルの研究を推進・支援する体制は素晴らしい。また、やがて世界的研究につながるかもしれない、若手研究グループへの支援も好ましい。 ・科研費採択実績は、少しずつ、また外部資金の受入れはかなり伸びてきており、順調である。 		
	村瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・学長枠による「選択と集中」で先駆的研究を支援することだけでなく、<u>成果報告会を通じて情報発信していることは「透明性」「客観性」を高めるために非常に重要である。</u> 		
	吉田	<ul style="list-style-type: none"> ・総合研究推進機構、研究センターなどの設置により、課題設定を重点化することで研究を推進している。 ・ダイバーシティ、ワークライフバランスなどに配慮した研究実施体制の構築に努めている。 		

<首都大学東京に関する目標>

3 社会貢献に関する達成状況への評価コメント

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
<p>評価コメント (案)</p>	<p>・八王子市と包括連携協定を締結して、イベントの共催、ボランティアに関する協定締結が行われ、自治体と連携した事業が推進されている。自治体と連携した事業モデルづくりに繋がっていくことが期待される。</p> <p>・大学発ベンチャーの新規設立及び既存の大学等発ベンチャーに対する経営支援により、産学連携機能の強化に貢献した。</p> <p>・地域との連携活動、社会人リカレント教育、オープンユニバーシティの再構築など、地域や社会に向けた教育の充実が図られている点が評価できる。オープンユニバーシティは民間福利厚生会社と連携することなどにより受講者数の拡大につなげた。</p> <p>・都をはじめとする各自治体の政策立案等の担い手の育成のためのプログラムを提供する等、人材育成に貢献している。都政との連携が大きな特徴である。</p>		
<p>参考意見</p>		<p>・都及び市町村からの受託事業が金額的には増えているものの、件数として低減傾向にあることが懸念される。PRも含めてより重点的な取組が必要ではないか。</p> <p>・産学公連携についても外部資金受入状況は中期目標期間を通じて増減を繰り返している(全体としては微増)。知的財産などストックはあるはずなので、受託事業同様に認知度向上に向けた取組を期待する。</p>	

<首都大学東京に関する目標>

3 社会貢献に関する達成状況への評価コメント

		優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
各委員 コメント	松山	・オープンユニバーシティの再構築を行い、都民のニーズに応じた講座を開設し、着実に受講者が増えている。 ・都を始めとする行政機関・自治体の政策立案等の担い手の育成のためのプログラムを提供する等、人材育成に貢献している。都政との連携が大きな特徴である。		
	島田	-		
	鈴木	・八王子市と包括連携協定を締結して、イベントの共催、ボランティアに関する協定締結が行われ、自治体と連携した事業が推進されている。自治体と連携した事業モデルづくり繋がっていくことが期待される。 ・地域との連携活動、社会人リカレント教育、オープンユニバーシティの再構築など、地域や社会に向けた教育の充実が図られている点が評価できる。オープンユニバーシティは民間福利厚生会社などと連携することで受講者数の拡大につながっている。	・八王子市と包括連携協定を締結して、イベントの共催、ボランティアに関する協定締結が行われ、自治体と連携した事業が推進されている。自治体と連携した事業モデルづくり繋がっていくことが期待される。【再掲】	
	鷹野	・都市科学連携機構を通じて都の政策課題解決に向けた支援を行い、45件(H22年度)から59件(H27年度)へと連携実績を着実に伸ばした。 ・大学発ベンチャーの新規設立及び既存の大学等発ベンチャーに対する経営支援により、産学連携機能の強化に貢献した。(支援実績8件) ・オープンユニバーシティの再構築のために、講座企画を全学協力体制で検討することで魅力ある講座を提供し、各年度の登録会員数を着実に増加させた。		
	高橋	・公共経営の人材育成プログラムにより高度専門人材を育成することは、東京都に限らず社会への貢献が大きい。 ・大学が擁している多様な資源を活用するための、研究や知財に関する情報提供・情報収集は、有用である。		
	村瀬	-	・都・及び市町村からの「受託事業」が金額的には増えているものの、件数として低減傾向にあることが懸念される。PRも含めてより重点的な取組みが必要ではないか。 ・産学公連携についても外部資金受入れ状況は中期期間を通じて増減を繰り返している(全体としては微増)。知的財産などストックはあるはずなので、受託事業同様に認知度向上に向けた取組みを期待する。	
	吉田	・「首都大学東京新技術説明会」、「次世代イノベーション創出プログラム」、「りそな技術懇親会」において、産学公連携活動に発展していく可能性のある研究成果を積極的に発信した。 ・台湾の技術見本市「台北国際発明展」において、4件の研究成果を発表した。		

<産業技術大学院大学に関する目標>
1 教育に関する達成状況への評価コメント

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
<p>評価コメント (案)</p>	<p>・PBL教育の内容等を運営諮問会議参画企業等からなる委員会で検討し、産業界と連携した教育改善を行っている。また、PBL教育をアジア諸国に普及させるためAPENネットワーク(アジア高度専門職人材育成ネットワーク)を設立し、グローバル人材育成に貢献している。</p> <p>・実践型教育として「次世代成長産業分野高度人材養成プログラム」を実施する中、「事業アーキテクトコース」を設置して起業や事業改革を行う人材を輩出している点を高く評価する。</p> <p>・ディプロマ・サプリメントの導入、ブレンディッド・ラーニングの本格導入、WEB利用による授業評価システム導入等、授業の質向上や教育効果の測定について、先進的取組を行っていることを評価する。</p> <p>・平日夜間、土曜昼間の開講、クォータ制、長期履修制度、AIITブレンディッド・ラーニング、オンライン講義配信システムなど、学生の要望に応じた多様な学生支援がある。</p> <p>・文部科学省事業をはじめとする他大学との連携事業を4事業実施し、教育研究の連携を強化した。</p> <p>・専門職大学院認証評価における分野別認証機関の評価について、毎年、受審結果を踏まえた改善が行われ、評価結果が大きく改善している。</p>	<p>・多様な入試、教職員の企業訪問による広報活動など、地道な努力を行った結果、志願者の減少には抜本的な歯止めがかかっているとはいえ、創造技術専攻の定員割れについては、引き続き積極的な広報が望まれる。</p>	
<p>参考意見</p>	<p>・産業界のニーズを反映した教育体制の整備、他大学等との交流は先導的であり評価される。いずれも、その成果をわかりやすくPRする事例紹介があると、更に関係者の理解が得られるのではないか。</p>	<p>・ユニークな教育課程・教育方法が実践されているが、知名度が低いと定員充足が十分でないのは残念。「質保証」がPBL教育の柱なので、「志願者」全員を合格させ、修了認定(品質保証)を厳格に実施して個々人で異なる内容のオリジナル修了証書(評価書)を交付するといった方法も検討してみてはどうか。</p>	

<産業技術大学院大学に関する目標>
1 教育に関する達成状況への評価コメント

		優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
各委員 コメント	松山	<ul style="list-style-type: none"> ・PBL(問題解決型学習)教育の内容等を運営諮問会議参画企業等からなる委員会で検討し、産業界と連携した教育改善を行っている。また、PBL教育をアジア諸国に普及させるためAPENネットワークを設立し、グローバル人材育成に貢献している。 ・学位記・成績表に加え、学修成果を明示するディプロマ・サプリメントを発行している。 ・ブレンディッド教育、ディプロマ・サプリメント、PBL教育、単位バンクなど多様な仕組みを取り入れ、産技大の学生が学びやすい教育環境づくりに積極的に取り組んでいる。その成果をぜひ検証していただければ、他大学の教育にも大きく貢献することになる。(全体評価に掲載済) 		
	島田	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な属性を持つ学生がお互いに刺激しあい、学修できる教育内容を工夫し続けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者の減少に関して、詳細な分析が必要ではないか(全体評価に掲載済) 	
	鈴木	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールモデル集、教職員の企業訪問、SNSの活用などの戦略的な広報活動、社会人特別入試、キャリア再開支援入試などの多様な入試制度の導入により、志願者倍率の向上が図られている。 ・実践型教育として「次世代成長産業分野高度人材養成プログラム」を実施する中、「事業アーキテクトコース」を設置して起業や事業改革を行う人材を輩出している点が評価できる。 ・他大学との連携事業の実施、APENのネットワークの拡大などを通じて、国内外の大学との連携が強化されている点が評価できる。 ・専門職大学院認証評価における分野別認証機関の評価について、毎年、受審結果を踏まえた改善が行われ、評価結果が大きく改善している。 ・学生の多くが社会人であることを踏まえて、働きながら学ぶことを継続できる学修方法の工夫が行われている点が評価できる。(全体評価に掲載済) 		
	鷹野	<ul style="list-style-type: none"> ・「事業アーキテクトコース」を設置し、企業、創業等を担う人材の育成に取り組んだ結果、修了者7名のうち、3名が在学中に起業や新規事業の立ち上げを行った。事業の外部評価で12項目のうち10項目でS評価を受けた。 ・文科省事業をはじめとする他大学との連携事業を4事業実施し、教育研究の連携を強化した。APENネットワークを拡大し、国際的な連携を強化した。 ・情報アーキテクチャ専攻に対する分野別認証機関からの専門職大学院認証評価(H27年度)が前回(H22年度)に比べて大幅に改善した。学生からの事業評価を踏まえたアクションプランを各教員が作成し、授業の質向上に取り組んだ。 ・平日夜間・土曜昼間の開講、クォータ制、長期履修制度、AIITブレンディッド・ラーニング、オンライン講義配信システムなど、学生の要望に応じた多様な学生支援がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な入試、教職員の企業訪問による広報活動など、地道な努力を行った結果、平成29年度は志願倍率の増加を見た。創造技術専攻の定員割れについては、引き続き積極的な広報が望まれる。 	

高橋	<p>・学生募集のための大学院の認知度向上のための様々な取り組みを評価する。</p> <p>・産業界と連携した先導的PBLの推進、スキル及びコンピテンシー測定システムの運用、事業アーキテクトコースの設置など、新しい取り組みに積極的で、評価されている。</p> <p>・産業界のニーズを反映した教育体制の整備、他大学等との交流は先導的であり評価される。いずれも、その成果をわかりやすくPRする事例紹介があると、更に関係者の理解が得られるのではないか。</p> <p>・ディプロマ・サプリメントの導入、フレンドィッド・ラーニングの本格導入、WEB利用による授業評価システム導入等、授業の質向上や教育効果の測定について、先進的取り組みを行っていることを評価する。</p>		
村瀬	<p>・教育方法、学生支援など学生の多様さを考慮して優れたものとなっている。</p>	<p>・ユニークな教育課程・教育方法が実践されているが、知名度が低いと定員充足が十分でないのは残念。「質保証」がPBL教育の柱なので、「志願者」全員を合格させ、修了認定(品質保証)を厳格に実施して個々人で異なる内容のオリジナル修了証書(評価書)を交付するといった方法も検討してみてはどうか？</p>	
吉田	-		

<産業技術大学院大学に関する目標>
2 研究に関する達成状況への評価コメント

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
評価コメント (案)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年度、ほぼすべての教員が参加するPBL研究会を開催し、研究会からブレンド・ラーニングやルーブリック評価が導入される等、PBL教育手法に関する研究を継続的に実施していることを評価する。 ・産業デザイン研究所・ビッグデータ研究所などの開発型研究の推進など、高度専門技術者の育成に貢献している。 ・学生・教員ともに多様さを持っており、それがユニークな教育システム・プログラムにつながっている。今後より先駆的な研究成果が生まれることを期待する。 	都や関係研究機関と連携した教育研究活動を推進するためのオープンインスティテュート組織体制の整備については、更なる進化を期待する。	
参考意見			

<産業技術大学院大学に関する目標>
2 研究に関する達成状況への評価コメント

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
各委員 コメント	松山	-	
	島田	<ul style="list-style-type: none"> ・(どこの部署か忘れましたが、学内見学をしている時)オープンなミーティングルームによって、隣のテーブルのディスカッションが聞こえることで更なる創造の進展がされるという刺激的なスペース設定がされている ・企業・創業を担う人材育成については、専攻を横断したPBLの実施など、実践に即した効果的な教育方法についての研究が着実に進められている。 	
	鈴木	<ul style="list-style-type: none"> ・PBL型教育について、ほぼ全ての教員が参加する研究会を開催するなど、浸透が図られている。また、研究会からブレンド・ラーニングを導入するなどの成果が得られている。 	
	鷹野	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年度、ほぼすべての教員が参加するPBL研究会を開催した。その中で、ブレンド・ラーニングの導入やルーブリック評価の導入等の成果を得た。 ・商品化に結びつける開発型研究を推進し、特許取得などの成果を得た。 	-
	高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・PBL教育やブレンド・ラーニングの推進など教育手法についての進化、産業デザイン研究所・ビッグデータ研究所などの開発型研究の推進など、高度専門技術者の育成に貢献している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広範かつ高度な研究を実現するためのオープンインスティテュート組織体制の整備に向けた研究は、更なる深化を期待する。
	村瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・学生・教員ともに多様さを持っており、それがユニークな教育システム・プログラムにつながっている。今後より先駆的な研究成果が生まれることを期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生・教員ともに多様さを持っており、それがユニークな教育システム・プログラムにつながっている。今後より先駆的な研究成果が生まれることを期待したい。【再掲】
	吉田	<ul style="list-style-type: none"> ・PBL研究会を設置し、PBL教育手法に関する研究を継続的に実施していることは評価できる。 	

<産業技術大学院大学に関する目標>
3 社会貢献に関する達成状況への評価コメント

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
評価コメント(案)	<ul style="list-style-type: none"> 産技大の知見を活用し、都や区市町村等の政策課題に対する支援を着実に実施し、シンクタンク機能を発揮した。 文部科学省の補助金・事業委託、ASEAN事業など、外部資金の確保が行われている点を評価する。 中小企業や地元産業との交流を図りながら、ニーズを把握し、人材育成にもつなげている姿勢が優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> マンスリーフォーラム等の取組が定着し、地域・社会への貢献については一定の成果を継続しているが、マンネリ化を避けるためにも現状に甘んずることなく、さらなるチャンネル拡大と新たな視点からの取組を期待する。 	
参考意見			

<産業技術大学院大学に関する目標>
3 社会貢献に関する達成状況への評価コメント

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点	
各委員 コメント	松山	<ul style="list-style-type: none"> 都や区と連携し、人材育成や技術支援などで協力している。 	-	
	島田	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業や地元産業との交流を図りながら、ニーズを把握し、人材育成にもつなげている姿勢が優れている。(全体評価に掲載済) 		
	鈴木	<ul style="list-style-type: none"> 東京都や市区町村の政策課題解決に対して、産技大の知見が活用されている。 文部科学省の補助金・事業委託、ASEAN事業など、外部資金の確保が行われている点が評価できる。 AIIITマンスリーフォーラムの実施により、社会人リカレント教育の充実が図られている。 		
	鷹野	<ul style="list-style-type: none"> 産技大の知見を活用し、都や区市町村等の政策課題に対する支援を着実に実施した。 「情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク育成事業」(文部省補助金)や「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」(文部科学省からの事業委託)などの外部資金を獲得している。 AIIITマンスリーフォーラムの実施等により、広く社会人の学び直しを支援した。 	-	
	高橋	-	<ul style="list-style-type: none"> 東京を中心とした中小企業への貢献については、シンクタンクとしての機能にとどまらず、それを実業への落とし込みにつなげる活動につなげれば、更にAIIITのプレゼンスが増すものとする。(全体評価に掲載済) 	
	村瀬	<ul style="list-style-type: none"> マンスリーフォーラム等の取組が定着し、地域・社会への貢献については一定成果を継続。 但し、マンネリ化を避けるためにも現状に甘んずることなく、さらなるチャンネル拡大と新たな視点からの取組に期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 但し、マンネリ化を避けるためにも現状に甘んずることなく、さらなるチャンネル拡大と新たな視点からの取組に期待したい。【再掲】 	
	吉田	<ul style="list-style-type: none"> 政策課題に対するシンクタンク機能を発揮し、東京都との連携を進めた。 		

<東京都立産業技術高等専門学校に関する目標>

1教育に関する目標を達成するための措置

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
<p>評定コメント(案)</p>	<p>・女子学生向けサイトの設置、女子学生向けカレッジガイドやノベルティの作成・配布等、女子学生の確保に向けての取組が行われている点が評価できる。学生の女子比率は1割に満たないため、更なる確保へ向けた取組を期待する。</p> <p>・国際化に向けて、GEP、GCP及び海外インターンシップの3つの海外体験プログラムを開始して、学生がステップアップ、継続して国際化事業に参加できる仕組みを構築し、また、国際交流ルームを設置する等、派遣前の学生を支援する体制が整えられてきていることを高く評価する。</p> <p>・第二期中期目標期間中に、学生の自己評価の指標の設定、教務システムへの実装と実施、教員へのフィードバック、詳細な自己評価のためのルーブリック評価の導入等を順次進めた。学生の自己学習の改善とともに、教員の教育の改善にも活用できる素晴らしい方法である。</p> <p>・上級学生が下級学生の相談に応じるSA制度の導入について、校内塾SA、情報センターSA、編入学生SAなど、目的に応じた仕組みを作るなど、相談体制の充実が図られている点が評価される。</p> <p>・上記の海外体験プログラムや、高度情報セキュリティ人材及び航空技術者の育成プログラムの新設は、産技高専が、時代のニーズにマッチしていることを証明しており、高く評価する。</p>	<p>・産技大との連携施策により、品川キャンパス内には産技大も併設されているというユニークさも活かし、高専・大学連携が推進されているが、学生の意見も十分に聴取しながら、より強化することで産技高専への注目度を高め、志願者増を図っていただきたい。</p>	
<p>参考意見</p>	<p>・「産技高専」の認知度・ブランド力の確立に向けた努力を評価するとともに、一層の奮起を期待したい。</p>	<p>・女子学生向けサイトの設置、女子学生向けカレッジガイドやノベルティの作成・配布等、女子学生の確保に向けての取組が行われている点が評価できる。学生の女子比率は1割に満たないため、更なる確保へ向けた取組が期待される。【再掲】</p> <p>・産技大のように(高学年限定で良いので)学生から授業を評価し、その結果をフィードバックすることも検討してはどうか。【再掲】</p>	

<東京都立産業技術高等専門学校に関する目標>

1教育に関する目標を達成するための措置

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
松山	<ul style="list-style-type: none"> ・入試広報を強化し、ものづくりに意欲的な学生や女子学生の確保に努め、HPやSNSを有効に活用している。 ・教育内容の改善に取り組み、実験・実習の整備、ICT活用による教育、教育環境の整備などを進め、グローバル化に対応できるエンジニアの育成に力を注いだ。 ・国際化に向けて、海外インターンシップなど学生派遣が増加し、さらに国際交流ルームを設置する等して派遣前の学生を支援する体制が整えられてきている。 ・産業界のニーズに応えるため、情報セキュリティ分野と航空技術分野での人材育成プログラムを開始した。 ・学生自身が学習到達度を測る自己評価システムを教員と共有し、学生の自己学習の改善と共に、教員の教育システムの改善にも活用できる素晴らしい方法である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複線型教育については、「学生や社会のニーズに立ち返り、見直しを検討する必要がある」との平成25年度業務実績評価を受けて、「産業界のニーズに応じた実践的な専門教育の充実を図ることにより、(中略)産技大と連携して複線型教育システムを拡充・推進する」と、中期計画を変更している。 ・産技大と産技高専の特性や学生の意見も十分生かして、産技大の教員の産技高専への派遣(出前授業等)や研究者同士の交流強化等の新たな連携を模索していただきたい。(事前説明より。) 	
島田	<ul style="list-style-type: none"> ・先駆的な取り組みと同時に、基本的なものづくりに対する姿勢を伝える取り組みが行われている。 		
鈴木	<ul style="list-style-type: none"> ・女子学生向けサイトの設置、女性学生向けカレッジガイドやノベルティの作成・配布等、女子学生の確保に向けての取組が行われている点が評価できる。学生数の女性比率は1割に満たないため、更なる確保へ向けた取組が期待される。 ・3つの海外体験プログラムを開始して、学生がステップアップ、継続して国際化事業に参加できる仕組みを構築している点が評価できる。 ・地域の中小企業や大企業なども加わった運営協力者会議による「産業界からみた育成する人材像」の提言を受けて、新たなカリキュラムへの反映への検討が行われている。活躍できる人材育成につながる事が期待される。 ・学習到達度及び自己評価指標の導入、ルーブリック評価の導入についての検討・準備など、学生が学習到達度を確認することのできる仕組みを導入している点が評価できる。結果を担当教員にフィードバックしている点も授業の充実につながるから評価できる。 ・上級学生が下級学生の相談に応じるSA制度の導入について、校内塾SA、情報センターSA、編入学生SAなど、目的に応じた仕組みを作るなど、相談体制の充実が図られている点が評価される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女子学生向けサイトの設置、女性学生向けカレッジガイドやノベルティの作成・配布等、女子学生の確保に向けての取組が行われている点が評価できる。学生数の女性比率は1割に満たないため、更なる確保へ向けた取組が期待される。【再掲】 	
各委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・26年度以降の応募者数は微増傾向にある。多様な学生確保の努力の賜物と考えられる。 ・産業界のニーズを踏まえて、JABEEによる教育プログラムの認定や、アクティブラーニングの導入を行った。さらに、情報セキュリティ技術者育成プログラム及び航空技術者育成プログラムを新設した。 ・第2期中期計画期間中に、学生の自己評価の指標の設定、教務システムへの実装と実施、教員へのフィードバック、詳細な自己評価のためのルーブリック評価の導入等を順次進めた。 ・学生相談支援体制を全般的に強化し、学生のニーズに対応してきた。スチューデント・アシスタント制度(上級生が下級生に助言を行う仕組み)を導入・実施して成果を挙げている。 	-	
鷹野			

高橋	<p>・「産技高専」の認知度・ブランド力の確立に向けた努力を評価するとともに、一層の奮起を期待したい。</p> <p>・エンジニア育成のグローバル化対応への3種のプログラム、高度情報セキュリティ人材及び航空技術者の育成プログラムの新設は、産技高専が、時代のニーズにマッチしていることを証明していると考える。</p> <p>・教育の質の評価を行い、これを改善につなげるというPDCAの継続を評価する。</p> <p>・国際交流ルーム他、英語の自己学習を促す仕組み、未来公房などの課外学習を支援する仕組み等、定番の施策とはいえ、この環境を整えることは意義深い。</p>	<p>・「産技高専」の認知度・ブランド力の確立に向けた努力を評価するとともに、一層の奮起を期待したい。【再掲】</p>	
村瀬	<p>・品川キャンパス内には産業技術大学院大学も併設されているというユニークさも活かし、高専・大学連携が推進されているが、より強化することで高専への注目度を高め、志願者増を図っていただきたい。</p> <p>・学生自身による「学習到達度自己評価」の教員へのフィードバック、シラバス反映は定着しつつあるが産業技術大学院大学のように(高学年限定で良いので)学生から授業を評価し、その結果をフィードバックすることも検討してはどうか。</p>	<p>・品川キャンパス内には産業技術大学院大学も併設されているというユニークさも活かし、高専・大学連携が推進されているが、より強化することで高専への注目度を高め、志願者増を図っていただきたい。【再掲】</p> <p>・学生自身による「学習到達度自己評価」の教員へのフィードバック、シラバス反映は定着しつつあるが産業技術大学院大学のように(高学年限定で良いので)学生から授業を評価し、その結果をフィードバックすることも検討してはどうか。【再掲】</p>	
吉田	<p>・JABEE対応のカリキュラム編成に、継続的に取り組んでいる。</p> <p>・国際社会で活躍できるエンジニアの育成のためのプログラムの実施に取り組んでいる。</p>		

<東京都立産業技術高等専門学校に関する目標>

2 研究に関する達成状況への評価コメント

		優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
評価コメント(案)		・教育機関としての産技高専の特性を活かしつつ、科研費・外部資金獲得に向けて教員への支援に取り組んだ成果が着実に顕在化している。学生へも好影響を与えるものと評価する。	・外部講師によるセミナー、個別コンサルティング等の効果で、科研費の申請者がより増えてきている。今後の成果を期待する。	
参考意見				
各委員 コメント	松山	・科学研究費申請者に対する支援が行われており、研究を積極的に進める教員には支援を続ける姿勢が見える。	・外部講師によるセミナー、個別コンサルティング等の効果で、平成29年度の科学研究費補助金の申請者が前年度(平成28年度)より増えた。今後の成果を期待する。【年度より再掲】	
	島田	・科研費や外部資金獲得に向けて堅実に取り組んでいる。		
	鈴木	・学校が配分する研究費の枠組みの中に教育改善研究費、教育課題研究という分野を設定し、研究成果を教育活動の中で実践されている点が評価できる。		
	鷹野	-		
	高橋	・研究支援活動が実を結び、科研費獲得、外部資金獲得の増加、という形に表れて、教員の研究が促進されている。		
	村瀬	・教育機関としての高専の特性を活かしつつ、科研費・外部資金獲得に向けて教員への支援に取り組んだ成果が着実に顕在化している。学生へも好影響を与えるものと評価したい。		
	吉田	・研究支援制度を構築し、運用を始めた。		

<東京都立産業技術高等専門学校に関する目標>

3 社会貢献に関する達成状況への評価コメント

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
評定コメント(案)	<ul style="list-style-type: none"> ・教材及び教育手法をまとめたテキストの開発・配布、小中学校へのものづくり教育支援員の派遣や教員への研修、小中学生に対する教室開催など、ものづくり教育の中核機関としての取組が行われている。 ・企業等との地域連携が、学生の教育研究活動(学生による企業の未活用特許を活用したビジネスプランを企業へ提言するなどの取組等)にも活かされている点を評価する。 ・地元自治体からの委託により、若手技術者支援講座を継続的に開講し、ものづくり技術者に対する「学び直し」の場を提供していることは、意義深い。 ・東京都立産業技術研究センターと産技高専との連携協定に基づき、企業からの相談に応えて、技術相談や共同研究を推進している。 ・東京都の自治体や関係機関との連携で東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた事業に取り組んでいる。さらなる発展を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方では高等教育機関が少ないこともあり、地域・社会における高専の存在感が比較的高い。産業技術高専の場合は首都大や産技大との連携をアピールした活動を検討していただきたい。また、首都圏の高専としての特長を活かした活動も期待する。 	
参考意見			

<東京都立産業技術高等専門学校に関する目標>

3 社会貢献に関する達成状況への評価コメント

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点	
各委員 コメント	松山	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都の自治体や関係機関との連携で東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた事業に取り組んでいる。さらなる発展を期待したい。 	-	
	島田	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の中小企業などへ、講座を通じての支援や、意見交換などを積極的に行っている。 		
	鈴木	<ul style="list-style-type: none"> ・教材及び教育手法をまとめたテキストの開発・配布、小中学校へのものづくり教育支援員の派遣や教員への研修、小中学生に対する教室開催など、ものづくり教育の中核機関としての取組が行われている。 ・企業等との地域連携が、学生の教育研究活動(学生による企業の未活用特許を活用したビジネスプランを企業へ提言するなどの取組等)にも活かされている点が評価できる。 ・自治体からの委託やオープンカレッジで社会人に対する教育の推進が図られている。社会人の再教育ニーズにこたえることで、再び活躍できる人材育成に貢献している。 		
	鷹野	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都立産業技術研究センターと都立産業技術高等専門学校との連携協定に基づき、企業からの相談に応えて、技術相談や共同研究を推進している。 ・地域組織との積極的連携により、共同研究や技術相談の機会の拡充を推進した。 ・ものづくり技術者に対する「学び直し」の場を提供している。 		
	高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020オリ・パラ競技大会に向けた荒川区との協働は、都政との連携にあたって意義深い。 ・地域連携委員会、TASKプロジェクト、産学公連携センターの諸活動の活性化が期待される。 ・ものづくり技術者に対する「学び直し」の場の提供は、意義深い。 		
	村瀬		<ul style="list-style-type: none"> ・地方にある高専では(高等教育機関が少ないこともあり)地域・社会における存在感が比較的高い。産業技術高専の場合は首都大学や産業技術大学院大学(品川キャンパス)との連携をアピールした活動を検討していただきたい。また、首都圏の高専としての特長を活かした活動も期待したい。 	
	吉田	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都立産業技術研究センターとの連携による技術相談や小中学校の教員への支援を、継続的に実施している。 		

< 法人運営の改善に関する目標 >

1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
<p>評価コメント(案)</p>	<p>・首都大が有する教育研究資源の有効的な集約と配置、及び先端分野の強化のために、新たな時代に即した組織再編を決定した。</p> <p>・法人運営を支える事務組織の体制整備や機能の強化について、国際化、学生支援機能、研究支援体制強化、産学公連携、情報などについて、確実に充実が図られている。</p> <p>・各大学及び高専の特性に合わせた教員人事計画を策定するとともに、新任教員に対して、ワークショップや研究会、研修会が開催されるなど、充実した支援が行われている点が評価できる。</p> <p>・高い専門性と経営感覚を兼ね備えた「プロ職員」育成に向けた海外研修プログラムの実施、他組織への派遣研修等を評価するが、更に一層の研究・実行が望まれる。</p> <p>・庶務、会計、教務などの業務ごとに業務処理プロセスを見直し、業務改善を図っている。また、ICT環境を整備し、業務の効率化・教育研究活動の質的向上につなげている。</p>	<p>・教育・研究活動の活性化を図るため、産学公連携センター、総合研究推進機構、学生サポートセンターなど、縦割組織の弊害を打破する組織横断的な機能の更なる充実を期待する。</p>	<p>・業務効率化は具体的な数値目標(書類・会議時間削減、プロセス削減等)を設定した上で推進し、その進捗を定量的に評価すべきである。</p>
<p>参考意見</p>		<p>・学生サポートセンターは2大学1高専それぞれに性格が異なることを考慮した体制強化が大切である。</p> <p>・法人を運営する「プロ職員」としては、発想豊かな企画力を持つ者や確実な事務能力を持つ者など、多様な職員採用や育成が必要ではないか。</p> <p>・「教員」「職員」が一体となって2大学1高専の存在価値を高めていけるような仕組みと意識改革が重要である。</p>	

< 法人運営の改善に関する目標 >

1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
各委員 コメント	<p>松山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都大学が有する教育研究資源の有効的な集約と配置、および先端分野の強化のために、新たな時代に即した組織再編を決定した。 ・首都大学東京の更なる発展を目指すために教員定数を設定した。 ・学生サポートセンターを充実させ、キャリア支援、課外活動支援、経済支援などを行った。 		
	<p>島田</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トップ交代と学部・院の再編、認証評価と大きな業務が重なる時期に法人全体として着実に組織運営を行っている。(全体評価に掲載済) 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人を運営する「プロ職員」としては、発想豊かな企画力を持つ者や確実な事務能力を持つ者など、多様な職員採用や育成が必要ではないか。 	
	<p>鈴木</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人運営を支える事務組織の体制整備や機能の強化について、国際化、学生支援、研究体制強化、産学公連携、情報などについて、確実に充実が図られている。 ・社会情勢の変化を踏まえた各大学・高専の特性に応じた人事制度導入のための取組が行われている。 ・新任教員に対して、ワークショップや研究会、研修会が開催されるなど、充実した支援が行われている点が評価できる。 ・職員に対するキャリアパスの明確化や人材育成プログラムに基づく研修の充実が図られている点が評価できる。特に国際化に対応する職員育成方針に基づいて、海外研修も行われている。 ・相談支援、ボランティアや課外活動への参加支援、キャリア形成支援などにおいて、学生に対する支援の充実が図られている。 ・業務効率化、教育研究活動の質向上のために、ICT環境の整備が図られている。システム導入にあたっては、庶務業務ヒアリングを踏まえて実施するなど、課題抽出・分析を行った上で、取組が推進されている。 		
	<p>鷹野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意思決定のプロセスを見直し、既存の運営委員会の統廃合等により、意思決定の迅速化及び責任の明確化を図った。 ・教育研究組織の再編、および事務組織の体制整備や機能強化に取り組んだ。 ・各大学および高専特性に合わせた人事計画を策定した。また、若手教員の育成支援に必要な環境を整備した。 ・職員人事制度の適切な運用を行うとともに、必要な制度改正や運用改善を行った。国際化対応も視野に入れて、高い専門性と経営感覚を兼ね備えた「プロ職員」の育成に取り組んだ。 ・学生サポートセンターの学生支援機能強化と産学公連携センターの再整備に取り組んだ。 ・ICT環境の整備を促進し、業務の効率化、教育研究活動の質的向上、情報セキュリティ体制の強化を図った。 		
	<p>高橋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際化への対応、学生支援機能の充実、研究支援体制の強化、産学公連携機能の整備、情報部門の充実という目的に沿った施策が、的確に実施された(全体評価に掲載済) ・「プロ職員」育成に向けた海外研修、他組織への派遣研修等を評価するが、更に一層の研究・実行が望まれる。 ・庶務、会計、教務などの業務ごとに業務処理プロセスを見直し、業務改善を図っている。また、ICT環境を整備し、業務の効率化・教育研究活動の質的向上につなげている。 ・多様な教員人材を確保するための学長裁量が認められたり、特別研究期間制度、研究重点教員支援制度など、特色のある施策となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「プロ職員」育成に向けた海外研修、他組織への派遣研修等を評価するが、更に一層の研究・実行が望まれる。 【再掲】 ・産学公連携センター、総合研究推進機構、学生サポートセンターなど、縦割組織の弊害を打破する組織横断的な機能が充実すると、教育・研究活動が柔軟に活性化する。 【再掲】 	

村瀬	<p>・「教員」「職員」が一体となって2大学・1高専の存在価値を高めていけるような仕組みと意識改革が重要である。</p> <p>・学生サポートセンターは2大学1高専それぞれに性格が異なることを考慮した体制強化が大切である。</p> <p>・業務効率化は具体的な数値目標(書類・会議時間削減、プロセス削減等)を設定した上で推進し、その進捗を定量的に評価すべきである。</p>	<p>・「教員」「職員」が一体となって2大学・1高専の存在価値を高めていけるような仕組みと意識改革が重要である。</p> <p>・学生サポートセンターは2大学1高専それぞれに性格が異なることを考慮した体制強化が大切である。</p>	<p>・業務効率化は具体的な数値目標(書類・会議時間削減、プロセス削減等)を設定した上で推進し、その進捗を定量的に評価すべきである。</p>
吉田	<p>・学生サポートセンターによる学生支援機能の強化、産学公連携センターの再整備による研究支援の強化を図っている。</p> <p>・職員の高度国際化にむけ、海外研修プログラムを実施している。</p>		

< 法人運営の改善に関する目標 >

2財務運営の改善に関する目標を達成するための措置

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
<p>評価コメント(案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得に向けて、支援体制や研究支援活動の強化が行われたことにより、外部資金の件数、金額とも大きく増加している。 ・学内施設の有効活用に向けた規程等の改正、知的財産有用支援体制の強化により、貸出件数や知的収入金額が増加し、取組の効果が表れている。 ・経費節減のためのエネルギー消費削減に取り組み、省エネ機器に交換して、電気使用量を着実に減少させている。 ・剰余金の基金化を促進し、教育研究プロジェクト推進や大学院生奨学金等の学生支援に活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生、地域などをはじめとする一般社会から、一般寄付金を、薄くても良いので広く集める試みは、地道にしっかりと継続していただきたい。 	
<p>参考意見</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・経費の節減は、省エネ機器への更新による電気料の節減だけでは不十分である。業務処理プロセスの見直しや、ICT環境整備による人件費・各種物件費の節減、総額抑制方式による経費の節減など、まだ打つべき手があると思われる。既に実行しているなら、その報告が必要である。 	

< 法人運営の改善に関する目標 >

2財務運営の改善に関する目標を達成するための措置

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点	
各委員 コメント	松山	<ul style="list-style-type: none"> ・経費節減のためのエネルギー消費削減に取り組み、消エネ機器に交換して、電気使用量を着実に減少させている。 ・効果的な資金運用の結果、毎年8000万円を超える運用益を得ている。 		
	島田	<ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得のための支援体制が強化されている。 		
	鈴木	<ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得に向けて、支援体制や研究支援活動の強化が行われたことにより、外部資金の件数、金額とも大きく増加している。 ・社会的ニーズに応じた魅力的な講座が開講されていることから、オープンユニバーシティの受講者数、会員数も増加しており、事業収入の確保につながっている。 ・省エネルギー効果の高い機器の導入などにより、電気使用量、電気料金とも大幅に削減することにつながっている。 ・学内施設の有効活用に向けた規定等の改正、知的財産有用支援体制の強化により、貸出件数や知的収入金額が増加し、取組の効果が表れている。 		
	鷹野	<ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得、寄附金獲得に向けた取組みを継続的に行った。学生納付金(授業料)および事業収入(オープンユニバーシティ)の適切な確保に努めた。 ・省エネルギーの高い機器への更新により、電気使用量、電気料金等の抑制につながった。 ・剰余金の基金化を促進し、教育研究プロジェクト推進や大学院生奨学金等の学生支援に活用した。 		
	高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生、地域などをはじめとする一般社会から、一般寄付金を、薄くでも良いので広く集める試みは、地道にしっかり継続するべきである。ただ、寄付金募集要項を整え、HPに窓口を設けるだけでは、集まらない。首都大のブランド確立と合わせた大目標とするべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生、地域などをはじめとする一般社会から、一般寄付金を、薄くでも良いので広く集める試みは、地道にしっかり継続するべきである。ただ、寄付金募集要項を整え、HPに窓口を設けるだけでは、集まらない。首都大のブランド確立と合わせた大目標とするべきである。【再掲】 ・経費の節減は、省エネ機器への更新による電気料の節減だけでは不十分である。業務処理プロセスの見直しや、ICT環境整備による人件費・各種物件費の節減、総額抑制方式による経費の節減など、まだ打つべき手があると思われる。既に実行しているなら、その報告が必要である。 ・知的財産の有効活用をするためのマネジメント強化は大切だが、「知財収入」となると、絶対額でそれ程大きなものとはなっていない。これを、研究部門のモチベーションアップにつながるような施策に使い切ってしまう、という施策はどうか？ 	
	村瀬	-	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付金については(日本では)安定収入源とすることが難しいのではないかと、もし(収入源として)期待するのであれば方針・戦略(ターゲット)が必要。 ・経費節減に取り組むとした場合には「業務効率化(削減)」と表裏一体となることを認識すべきである。 	
吉田	<ul style="list-style-type: none"> ・外部資金の獲得額が増加した。 ・JSTの海外出願支援申請及び国際特許出願(PCT)を行った。 			

< 法人運営の改善に関する目標 >

3自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

	優れた点・特色ある点・特色のある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
評価コメント(案)	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検の整備充実についての取組が継続されていることを評価する。また、各種評価結果に対して、法人、各大学・高専において、改善計画の策定等が行われ、具体的な取組として実施されており、教育・研究の質向上につながっている。 認知度向上に向け、全国紙や書籍に、記事・広告を掲載するなど、法人全体で、国内外の様々な広報媒体を活用するなどして情報発信の強化が行われている点が評価できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 第二期中期目標期間において、複数回情報セキュリティ事故が発生し、平成23年度、25年度、26年度の評価委員会による評価においてリスク管理に問題があることが指摘された。今後も緊張感を持って再発防止に取り組んでいただきたい。
参考意見			

< 法人運営の改善に関する目標 >

3自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

	優れた点・特色ある点・特色のある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点	
各委員 コメント	松山	<ul style="list-style-type: none"> 教職員や学生への研修を怠ることなく行うと共に、情報システムは常に専門家の指導を仰ぐことを願う。(全体評価に掲載済) 	<ul style="list-style-type: none"> 本期間に情報セキュリティ事故が発生し、リスク管理に問題があることが指摘された。万全の体制で臨んでいても、なお、隙を突いて攻撃してくる極めて危険度の高いリスクである。緊張感を持って対応にあたっていただきたい。 教職員や学生への研修を怠ることなく行うと共に、情報システムは常に専門家の指導を仰ぐことを願う。(全体評価に掲載済) 	
	島田	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価等の改善計画を着実に実行できる組織体制を整えている。 		
	鈴木	<ul style="list-style-type: none"> 各種評価結果に対して、法人、各大学・高専において、改善計画の策定等が行われ、具体的な取組として実施されている点が評価できる。教育・研究の質向上が図られている。 サイバー攻撃等が社会問題となる中、法人として情報セキュリティ体制の充実・強化が図られているほか、教職員に対する教育・意識啓発に関する取組も推進されている。 法人全体で、国内外の様々な広報媒体を活用するなどして情報発信の強化が行われている点が評価できる。Webページアクセス数が減少傾向にあることから、より魅力的なコンテンツ作成などの検討が期待される。 		
	鷹野	<ul style="list-style-type: none"> 2大学1高専において、機関別認証評価を受審し、「適合」認定を取得している。評価結果に対して改善計画の策定を行い、教育研究の質的向上に向けて継続的に改善を図ってきた。(全体評価に掲載済) 平成26年度の情報セキュリティ事故の発生を受けて、組織整備、機器の配置の工夫、教職員への研修、関係規程類の整備などを行った。(全体評価に掲載済) 		
	高橋		<ul style="list-style-type: none"> 義務的に自己点検評価、外部評価を「こなす」だけでなく、実質的・自発的に、改善に向けた施策につながることを期待する。 認知度、ブランド力向上については、東京都庁を挙げた更なるバックアップを受けるなど、抜本的な方法はないかとも思う。 	
	村瀬	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検の整備充実についての取組みが継続されていることは高く評価したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信については認知度向上のためにも更に強化が必要といえるのではないかと。 	
	吉田	<ul style="list-style-type: none"> 認知度向上に向け、全国紙や書籍に、記事・広告を掲載した。 		

< 法人運営の改善に関する目標 >

< その他業務運営に関する重要目標を達成するために取るべき措置 >

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点
<p>評価コメント(案)</p>	<p>・エコキャンパス・グリーンキャンパス化の推進による省エネルギー対策を実施し、第二期中期計画期間において、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(東京都環境確保条例)に定める温室効果ガス排出量削減義務率の大幅な向上が図られている点を高く評価する。</p> <p>・メンタルヘルスも含めた健康の保持・増進、RI施設等の安全管理、日常的な危機管理体制の整備などを推進した。特に危機管理体制について、単にマニュアルを整備するだけでなく、実践的・効果的な訓練も行っていることは評価する。</p> <p>・特に教職員の心の健康保持増進の取組として、メンタルヘルス研修や、ストレスチェック、カウンセリングサービスなどの充実が図られており、研修等による意識啓発により、重度化する前に、相談につなげたり、職場改善を行う取組が行われることを期待する。</p> <p>・各大学・高専において国際化に向けた取組が推進されている中、グローバル人材の育成・輩出に向けて、法人が企画調整をして学生国際交流プログラムを立ち上げている点が評価できる。</p> <p>・都市外交人材育成基金の活用により、アジア諸都市からの留学生を受け入れ、高度な研究を進めてきたことが、次の時代の国際交流に発展することを期待する。併せて、経済連携協定に基づく看護師候補者及び介護福祉士候補者の国家試験合格支援が継続して大きな成果を上げている。</p>	<p>・倫理、コンプライアンス面での大きな問題が発生しない組織を維持し続ける必要がある。</p> <p>・セクハラ・アカハラ等への対策として、研修の実施、相談員の配置、外部専門家の活用体制整備などの充実が図られている点が評価できる。更なる未然防止のための意識啓発、起こってしまった場合の外部専門家を含めた多職種連携による対応充実を期待する。</p>	
<p>参考意見</p>		<p>・温室効果ガス排出量削減義務の達成を評価する。多くの一般学生が、環境問題を広く意識するように啓発されて卒業して行くような取組みがあれば良いと考える。</p>	

< 法人運営の改善に関する目標 >

< その他業務運営に関する重要目標を達成するために取るべき措置 >

	優れた点・特色ある点	更なる充実が期待される点	改善を要する点	
各委員 コメント	松山	<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガスの排出量削減に取り組み、削減目標を達成した。 ・国際的な競争力のある教育研究活動の支援に取り組んでいる。都市外交人材育成基金の活用により、留学生を受け入れ高度な研究を進めている。 		
	島田	<ul style="list-style-type: none"> ・経済連携協定に基づく看護師及び介護福祉士の国家試験合格支援が継続して大きな成果を上げている。 		
	鈴木	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー性能の高い機器への更新が計画的に行われているほか、省エネへの意識啓発も積極的に行っている点が評価できる。 ・教職員の心の健康保持増進の取組として、メンタルヘルス研修や、ストレスチェック、カウンセリングサービスを行うなどの充実が図られている点が評価できる。研修等による意識啓発により、重度化する前に、相談につなげたり、職場改善を行う取組が行われることが期待される。 ・多様な学生、教職員が安全に過ごすことができるように、キャンパスのバリアフリー化が推進されている点が評価される。 ・エコキャンパス・グリーンキャンパス推進実施計画に基づいた取組推進により、温室効果ガス排出総量削減率の大幅な向上が図られている点が高く評価できる。 ・研究倫理について、不正使用防止計画を策定し、計画に基づいて、意識啓発やガイドラインの改定等の取組が推進されている。 ・各大学・高専において国際化に向けた取組が推進されている中、法人として海外に向けた情報発信機能の強化などが行われている。また、グローバル人材の育成・輩出に向けて、法人が企画調整をして学生国際交流プログラムを立ち上げている点が評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の心の健康保持増進の取組として、メンタルヘルス研修や、ストレスチェック、カウンセリングサービスを行うなどの充実が図られている点が評価できる。研修等による意識啓発により、重度化する前に、相談につなげたり、職場改善を行う取組が行われることが期待される。【再掲】 ・セクハラ・アカハラ等への対策として、研修の実施、相談員の配置、外部専門家の活用体制整備などの充実が図られている点が評価できる。更なる未然防止のための意識啓発、おこってしまった場合の外部専門家を含めた多職種連携による対応充実が期待される。 	
	鷹野	<ul style="list-style-type: none"> ・エコキャンパス・グリーンキャンパス推進実施計画に基づき、省エネルギー対策を継続的に推進した。 ・メンタルヘルスも含めた健康の保持・増進、RI施設等の安全管理、日常的な危機管理体制の整備などを推進した。 ・第二期中期計画期間において、東京都環境条例に定める温室効果ガス排出量削減義務率を上回っている。 ・国際的に活躍できる人材育成の制度を整えてきた。 		
	高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期の施設整備計画を立案し、実行していることを評価する。 ・危機管理体制について、単にマニュアルを整備するだけでなく、実践的・効果的な訓練も行っていることは評価できる。 ・アジア諸都市からの留学生を受け入れてきたことが、次の時代の国際交流に発展することを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郊外型キャンパス、都市型キャンパスを一つの実験施設と考えて、省エネルギー・環境対策(エコキャンパス)のモデルケースを目指す取組みは出来ないものか、と考える。 ・温室効果ガス排出量削減義務の達成を評価する。多くの一般学生が、環境問題をとても意識するように啓発されて卒業して行くような取組みがあれば良いと考える。 ・倫理、コンプライアンス面での大きな問題が発生しない組織を維持し続ける必要がある。 	
村瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・着実な取組みが進められているものと評価。 			
吉田	<ul style="list-style-type: none"> ・エコキャンパス・グリーンキャンパス化の推進による省エネルギー対策を実施している。 			